翼龍の書
これはアルギース王家に代々伝わりし
由緒ある「古文書」である。

いざ立たん、
アルギースの平和のために

THE MAP

アルギース国、古代発祥の伝承

そも、アルギースとは天空界に住み暮らしたが始まりなり。

また、アルギースの大祖につかえる、万象の精霊これあり。ひとり地の精霊、またひとり、風の精霊、さらにひとり、水の精霊これあり。

アルギースの大祖、これら精霊どもに、はるか眼下、地の所を治めしことを命ず。大祖に双子あり。ひとりの王、天空を統べ、またひとりの王、地の国を統べしことを命ず。

地の国、もともと妖獣徘徊の世界なり。しかるにアルギースの地の王、精霊、民、それぞれによく働き、ついに楽園をきずきぬ。

アルギース王第15代の治世、人々、季節の香り、またあまた生物かけめぐるかの地上国を好み、ついに王の決断ここに下り、アルギースの国、ただひとつ地の国に定まりぬ。

アルギースの国、ひとつに定めしむ後、精霊ども、それぞれの役目を果たし終え、それぞれの地にて、永き眠りに入りたもう。これより後、平和なとき末ながくつづきぬ……。

15代アルギース王が残せしことばの数々

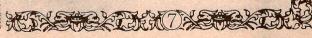
――そもわが血族は大祖の御代にふたつに別れ、天地二界を統べるなり。しかるに民の声、地の世界にのみかたよりて、強きその願いのゆえ、われ、ついに民の望みをかなえ、ひとつ国にまとめん。

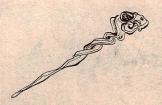
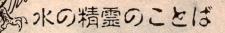
――それよりのち、天地二界、ふたりの王はいらず。ひとりは王を継ぎ、あまれりひとりのもの、災いを断つため、とつ国に放ちぬ。

あまれりひとりの者、あまりにふびんにて、そのものに人を超えたる力与えん。

――また、天空の王宮には、大祖より伝えられしアルギースの繁栄と力の象徴を残しぬ。これ、わが王家最大の秘宝にて、天空の王座の間に永遠の姿をたもつ。

もしアルギースに異変の起きたるそのとき、アルギースの後継者がこれなる家宝をたよりなば、「たましいはここにあり」の言葉にて偉大なる力をあらわさん…と大祖申し残せし。

三人の精霊が残せしことば

地の精霊のことば

　われ、アルギースの祖につかえ、大地を統べる王に呪術でつかえる。アルギースのすべての民、地の国に移りしとき、われセルリノ山脈に眠る。この地のことは、すべて、われ知るのみ。われ知るものは、当代に伝わる鷹匠のみ。また、われ呼ぶときは、「ちのせいれいよここに」と呼ぶべし。

これなる杖は、われが持つ秘宝なり。

水の精霊のことば

われ、アルギースの祖につかえ、大地を統べる王に永遠に水を治めんことを命じられる。アルギースのすべての民、ひとつ国に移りしとき、われ水の魂なる「水晶の珠」をいだきて、カナンの山中に眠る。われに話あるもの、マノト川の源流に納められたる聖なる壺にて、われを呼ぶべし。

この壺の名は「聖なる壺」というなり。

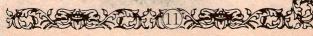
風の精霊のことば

われ、アルギースの祖につかえ、天と地と二界をへだてしはざまを呪術でまもる。アルギースの王と民、天空界を去りしとき、われその境の扉を閉じんがためゼラム高原にとどまる。

われ住むそばに、風の塔あり、風の塔すなわち天空界へいたる最初の道しるべなり。

われを呼ぶもの、われの問いに「へいわへのみち」と答えるもののみが、アルギースの血族と認めるなり。

これなる「風の鈴」は風の塔の封印なるぞ。

長老かく語りき

アルギースの祖に仕えし5人の長老の言葉

我ら五人、アルギース王に仕え、神と王との仲立ちをする者なり。
アルギースの繁栄のために、神より授かりたもう力を、王族の血に封じる。
一なる血には大いなる力を、二なる血には自然の理を動かす魔なる力を与えん。
いずれの力も、黒き血にて解き放たれるものなり。

一の長老
かく語りき

我、

魔の力にして、

失われし力を蘇らせる術を、

王族の二なる血に与えん。

これなる力、

言霊にて呼び起こすべし。

その言霊、

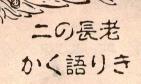
力をここに記すものなり。

ラテア

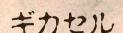
虚空より掴みたる力を、王家の血に注ぐ。
その力、大ならずも、
小さき傷ならばたちどころに癒ん。

メラテール

神より新しき力を受け、王家の血に注ぐ。
その力大にして、深き傷もたちどころに癒ん。

二の長老 かく語りき

我、魔の力にして、邪なる力を退じる術を、
王族の二なる血に与えん。
これなる力、言霊にて呼び起こすべし。
その言霊、力をここに記すものなり。

タリカダドダ

天空より、
大いなる鉄槌を邪なるものに下す術なり。
聖なる稲妻、邪なる力を打ち砕かん。

聖なる光を集め、
邪なるものを焼きたる術なり。
その力大ならずも、
無数の光条王家の血を守りたる。

エジロセトバ

虚空の持ちたる力を呼び起こせしめる術なり。
無数の爆発、邪なるものの骨をも砕かん。

ギカセイア

大地の持ちたる力を呼び起こせしめる術なり。
地を割り出ずる聖なる炎、
邪なるものを焼き尽くさん。

三の長老
かく語りき

我、魔の力にして、
一なる血の大いなる力を助くる術を、
王族の二なる血に与えん。
これなる力、言霊にて呼び起こすべし。
その言霊、力をここに記すものなり。

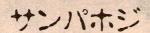
ヒチテバート

虚空より生じせしめたる霧にて
邪なるものの動きを封じる術なり。
邪なるものの四肢、その力を失いたる。

ダクタドール

邪なるものの内なる力を、
虚空をして奪わせしむ術なり。
この術にとらわれしもの、動くこと能わず。

四の長老かく語りき

我、魔の力にして、旅路の難儀を救う術を、
王族の二なる血に与えん。
これなる力、言霊にて呼び起こすべし。
その言霊、力をここに記すものなり。

我がしもべたる、
司祭の元へと王家の血筋を運びたる術なり。
如何なる空間を越えても、
その術、確かなるものなり。

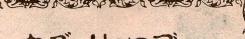
キヨクテシド

王家の血筋の足元を守りたる術なり。
害なす地にても、その害受けること無し。

ギアガンマ

王家の血筋を包たる大気を、
清なるものにせしむ術なり。
害なす気にても、その害受けること無し。

五の長老
かく語りき

我、一なる血に力と技の、
大いなる力を与えん。
また、
二なる血にアルギースの大いなる徴を、
呼び起こせしむ力を与えん。
これなる力、その徴を封じたる玉より、
言霊にて呼び起こすべし。
その言霊、力をここに記すものなり。

カズノヒロブ

アルギースの力と、繁栄の徴、
ここにその姿を現わさん。
この術に立ち向かうもの天地に無し。

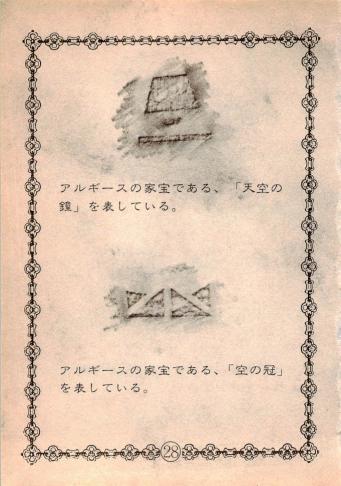
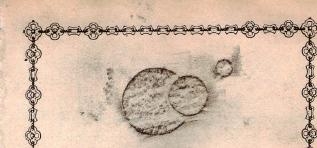
壁画・古文書に関する覚え書き

これなる章は、
アルギース17代の王、
ラキア四世の命を受け、
アルギースの祖の
御世より伝わりたる、
刻まれし言葉を
解読した記録の一部を
記したものである。

アルギースの家宝である、「水の木馬」を表している。

地の精霊の持ちたる秘宝、「烈地の杖」を表している。

アルギースの家宝である、「天空の鐘」を表している。

アルギースの家宝である、「空の冠」を表している。

ロメルの泉に同じ印がみられる。「ロメルのいずみ」を表しているものと思われる。

アルギース15世の治世に、天空界を閉ざした時のモニュメントである、「風の塔」を表している。

アルギースが、二界を統べ治めていた頃の、地上界に於ける王宮である、「アテパル城」を表している。

アルギースが、二界を統べ治めていた頃の、天空界に於ける王宮を、表している。

アルギースの統べ治めし第一の国である、「天空界」を表す。

■は大地を表し、■は歌を表すが、分けて使われた例はない。「だいちのうた」と訳されるのが妥当であろうが、その意味するところは不明である。

方位を示す。「西」を表している。

方位を示す。「東」を表している。

場所を表す一般的な言葉。たいていの場合、その場所を特定する言葉に続く。

水の精霊の統べたる万象、「水」全般を表す言葉である。川、泉、海の区分は特になく、全ては、この言葉にて表される。

地の精霊の統べたる万象、「山」を表しているが、特に地の精霊の築きたる山を表す場合が多い。

門・扉・関門等の意であるが、一般的に、家屋などの小規模な入口には使用されない。

「鐘楼」の意。「ひときわ高きところ」の意で使われることもある。

本来、「道しるべ」の意で使われていたが、転じて、「〜するために必要な」と訳される場合も多い。

「出合う」「交差する」などと、訳される場合が多い。

道具などを「使う」の意。対象となる道具は、この語の前に記されている場合が多い。

「安置」の意だが、「安置されている」という状態を表す場合と、「安置する」、「納める」といった行動を表す場合がある。

一つ前の言葉で表される方位に、「向かう」ことを表している。

「携える」「持っていく」等の意だが、それだけにとどまらず、その携えたる物を使うことを含めて、使用する場合が多い。

原因となる行為と、結果を結ぶ言葉と考えられる。結果を表す文章が、後に続く場合が多い。

前にある言葉が、起点であることを示す。「～より」・「～から」などと訳される。

方位、場所などを表す語に続き、「～へ至る」「～に続く」と、訳される。

本来、門・扉等が「開く」の意で使われるが、転じて、不可能であったことが、可能になる様を表す場合も多い。

基本的には、門・扉等が閉ざされている様を表すが、魔術的要素によって、閉ざされた様を、表す場合が多い。

妖獣どもに関する
覚え書き

ABONUM

〔アボナム〕

地上界に派遣された妖獣の士官。

特殊能力を持つため、重用されて

いる反面繁殖能力が極端に低く、

種族自体の数も減少傾向にある。

ALGAC

〔アルガック〕

これも、ミノリン親衛四天獣の一体。

デトンとは祖を同じくする妖獣だが、

種族間の関係はあまり良くない。

ALMURF

〔アルマーフ〕

地上界に派遣された妖獣軍団の中

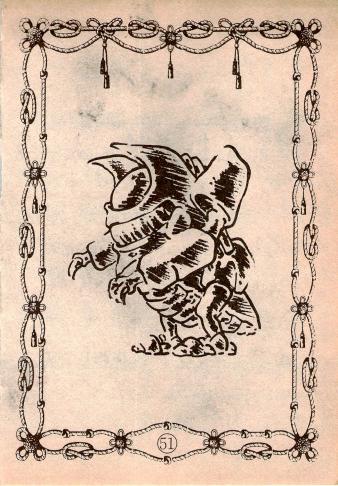
では、最高位となる先任下士官。

BANRUTT

〔バンルット〕

デトン（DETON）と同じく親衛四天獣の一体。

全身硬い装甲で覆われており、通常なら弱点とみられる目が武器になっている。

BYREB

〔バイレブ〕

今は閉ざされた天空界を守るために創られた守護獣の一体。妖獣軍団との交戦を前提に創られたので、姿形は見た目の恐怖を優先し奇怪なものになってしまった。

DEBAZZ

〔デバッズ〕

妖獣軍団の下級士官クラスに隠然たる勢力を持つ種族。夜間戦闘における指揮には定評がある。

DETON

〔デトン〕

妖獣軍団の司令官“ミノリン”を

護衛する親衛四天獣の一体。

剛力を誇る４本の腕が最大の武器

である。

DOCRU

〔ドクル〕

地上界に配備された生物兵器。

自分で考える知能は全く無い。夜行性で町や村などに侵入し人間を襲う。人に巻きつき、口や耳などから体内に入り込み殺害する。

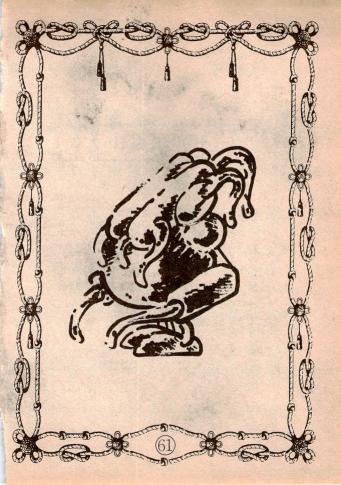
DOGASH

〔ドガス〕

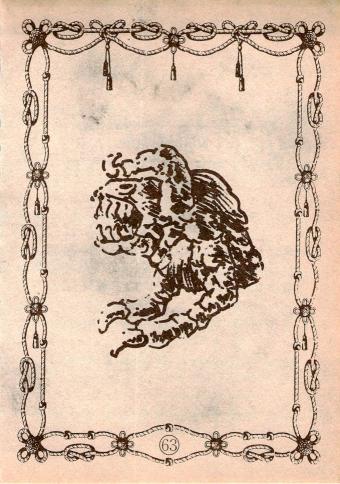
暗闇戦闘用に配備された生物兵器。

ドクル(DOCRU)育生中に、突然

変異として誕生した。

DOGEBU

〔ドゲブ〕

地上界に派遣された生物兵器。

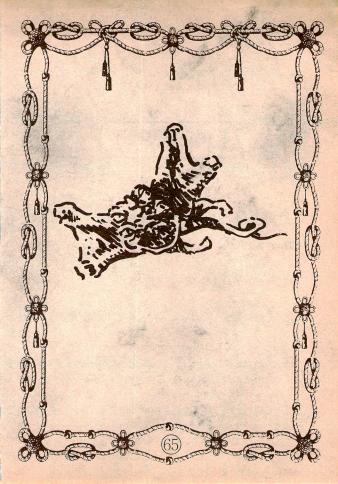
まだテスト段階のため、西の地のみに限定配備された。

DOGYAL

〔ドギャル〕

飛行戦闘用に配備された生物兵器。

環境に全く左右されず、奇襲など

に多用されている。

DOHERDI

〔ドハーディ〕

アテパル城に配備された生物兵器。

城内の地図を完全にインプットされており、城内においては最も危険な存在である。

DONGO

〔ドンゴ〕

暗闇の戦闘用に配備された生物兵器。

６本の脚で暗闇を素早く移動し、強力な尾と牙で攻撃してくる。

DUJAN

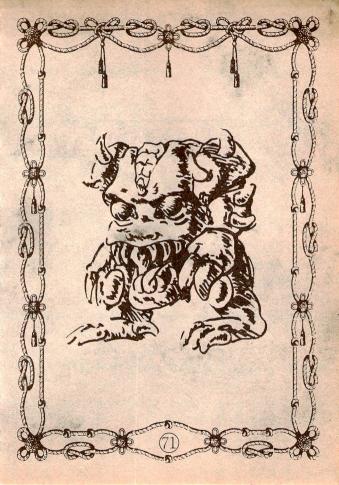
〔ディージャン〕

地上界に派遣された妖獣軍団の下

仕官。

一見凶暴で、力だけに頼る風に見

えることが闘いになると見事なま

でのエキスパートぶりを見せる。

LANGIS

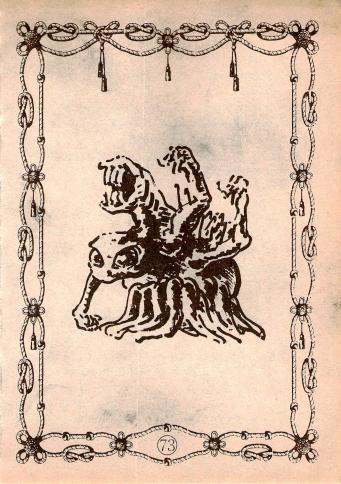
〔ランギス〕

天空の城を守るために創られた守

護獣。

守護三獣の中では最強のものであ

る。

LEGOG

〔レゴッグ〕

妖獣軍団内の佐官級を占める種族。

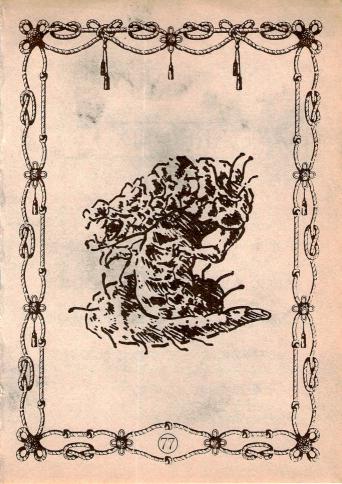
基本的には、暗闇の戦闘を得意とするが、オールマイティな能力を持ち、戦術レベルでの用兵は巧みである。

MAHURD

〔マハード〕

バイレブ(BYREB)と同じく、天空界を守るために創られた守護獣。バイレブに比べ動きは鈍いが、攻撃力は凄まじく、耐久力も強い。

MINOLIN

〔ミノリン〕

アルギースへの侵攻軍団の司令官。

妖獣の種族内では、高位の貴族集団

に属している。特に軍部の中枢は、

この一族によって占められており、

一大軍閥を成している。

〔レティクス〕

妖獣軍団の下士官内では、最大の

勢力を持つ種族。

知能は高等で小規模集団における

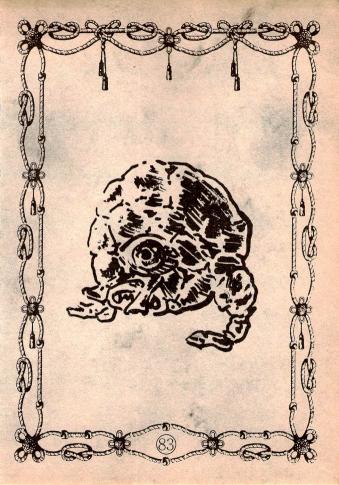
戦闘指揮能力には特筆すべきもの

がある。

WOW

〔ワ ウ〕

地上界に派遣された妖獣軍団の兵卒。性格は粗暴だが見た目ほど強くない。物陰にかくれ旅人を襲ったり、夜中、村に侵入して家畜を食い殺したりする。

ZOLGA

〔ゾルガ〕

親衛四天獣の長官。

司令官の一族(リン族)にとって変わろうと秘かに野望を抱いているが、現段階ではあくまでもミノリンに忠節を誓っている。

颶風神

〔ぐふうしん〕

遠い昔、天空界が閉じられたとき

妖獣軍団から、三種の宝物を守る

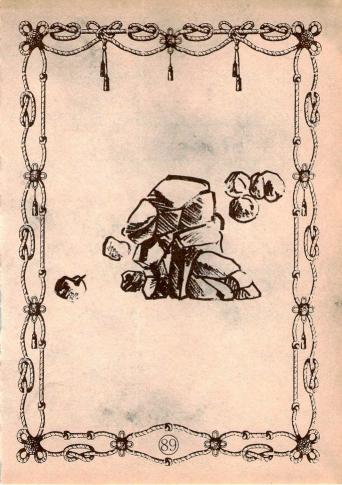
ために建立された守護三神の一体。

“天空の鐘” を守っている。

蒼炎神

〔そうえんしん〕

同じく守護三神の一体。今は閉ざされた天空の城にあり“龍の玉”と呼ばれるものを守っている。

奔流神

〔ほんりゅうしん〕

同じく守護三神の一体。“黒き龍の鍵”を守っている。